

2022年9月29日

報道関係者各位

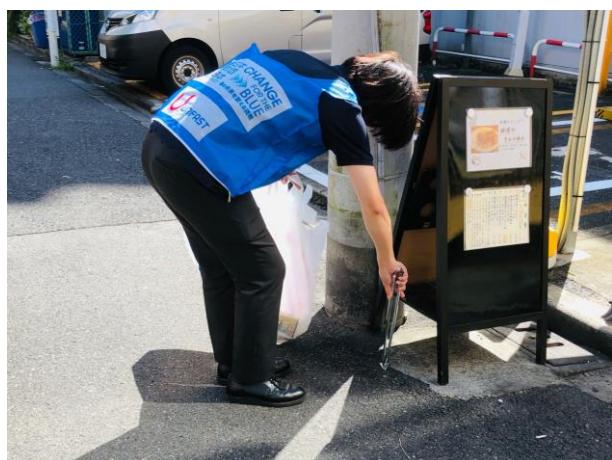
ユニファースト株式会社

今秋も環境にやさしい自社開発の『着られるエコバッグ』着用 「海ごみゼロウィーク」清掃活動を継続的に実施

地域貢献・環境意識・一体感も醸成 浅草橋の本社周辺にて 9月26日

企業向けオリジナル販促グッズや各種バッグのOEM生産を手がけるユニファースト株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：橋本敦）は、環境にやさしい自社開発製品『着られるエコバッグ（※）』を着用し、2022年9月26日（月）に本社のある東京・浅草橋周辺にて「秋の海ごみゼロウィーク」清掃活動を実施しました。

（※『着られるエコバッグ』とは、エコバッグの底がファスナーになっていて、閉じればバッグに、開ければ着られる仕組みになっている環境にやさしい2WAY製品。当社が開発し、実用新案取得済み。）



青い『着られるエコバッグ』を着用して、38名の社員が清掃活動を実施

■おそろいの青い『着られるエコバッグ』着用し、地域清掃活動実施 継続することの大切さ実感

「海ごみゼロウィーク」とは、環境省と日本財団の共同事業で、海洋ごみ問題の周知啓発をおこなう期間です。春は2021年5月30日（ごみゼロの日）から6月5日（環境の日）を経て6月8日（世界海洋デー）まで、秋は9月18日（World Cleanup Day）から9月26日の年2回あり、全国一斉に清掃キャンペーンを開催します。この清掃活動では、参加時に青いアイテム（青Tシャツや青いタオル等）の着用を推奨していることから、当社では環境にやさしい自社開発製品『着られるエコバッグ』の“海ごみゼロウィーク”デザインを製作し、昨年の春・秋、今年の春に引き続き4回目となる清掃活動を、9月26日（月）に実施しました。

前日、台風15号の影響で風雨が強かったのですが、当日は台風一過の青空が広がっていました。夏が戻ったかのような陽気の中、38名の社員が3~4人のグループに分かれて清掃をおこないました。

一見綺麗に見える浅草橋周辺でしたが、足元を注意してみれば、タバコの吸い殻や紙ごみ、落ち葉、空き缶などがあちらこちらにありました。台風が去った直後の路上には捨てられたビニール傘が目立ちました。今回拾ったごみの量は70Lごみ袋4袋分で、折れた傘は9本もありました。



『着られるエコバッグ』の
“海ごみゼロウィーク”デザイン

この度初参加した社内監査役の井原は「会社近隣はいつも綺麗な印象だったが、拾ったゴミが相当な量になり驚いた」との感想を抱いたといいます。また、「当社は若い社員が大半なので、継続して社会貢献に努めて欲しい」と呼びかけました。

昨年の春に実施した初回の清掃活動では、半ば義務感から参加した社員が多かった印象でしたが、実施回数を重ねるにつれ、「ゴミ拾い中に街の方から感謝の言葉をもらい、素直に嬉しく感じた」という社員が多くなり、いまでは前向きに参加する社員がほとんどだと感じています。さらに若手社員の齋藤は、「タバコの吸殻が圧倒的に多いと感じた、それが火種となって火事になる可能性もあり、ルールはしっかり守つてほしいと思った」など、防災意識にもつながっています。

また、清掃活動で着用した“海ごみゼロウィーク”デザインの『着られるエコバッグ』は、ポリエステル素材で作られているので、暑い中汗ばむ参加者も少なくありませんでした。そのような実体験から、「夏用に着られるエコバッグのメッシュタイプがあるといいのでは」といった素材改良の提案も出てきました。

このように清掃活動を継続して実施することで、社員の環境意識向上だけでなく、防犯意識の向上や地域との一体感、新商品開発のヒントにもつながり、有意義な時間になりました。

■サステナブルな『着られるエコバッグ』多方面で社会に貢献 清掃活動の経験が商談のネタに

昨今、SDGsに対する社会の関心は高まり、多くの企業でSDGsの実現に向けた取り組みが注目されています。また、投資家は企業のサステナビリティを意識し、ESG(環境・社会・ガバナンス)の要素を考慮した投資判断が広まり、脱炭素経営へのシフトなど、急速に企業の対応が迫られています。このようにSDGsの取り組みが企業価値向上に直結する中、当社が手がける販促グッズやノベルティグッズにも環境にやさしい製品の導入を検討する企業が増加しています。

当社が開発した『着られるエコバッグ』はレジ袋削減につながるエコバッグと、応援用ビブスも兼ねており、スポーツとSDGsへの貢献を両立したオリジナル製品です。2019年8月に実用新案を取得し、同年の10月より受注を開始しました。コロナ禍でスポーツ関連業界全体が不振に陥ったにもかかわらず、2020年は5,500個の注文をいただき、2021年は更に販売数を伸ばし、前年比約9倍の49,000個を受注しました。今年に入って9月末までの売上数はすでに23,010個に達成しました。



自社開発した『着られるエコバッグ』

もともとはスポーツ観戦用として開発した商品ですが、仲間認識や一体感を得られる上に環境にやさしい製品とのことで大手企業の社員ボランティア活動にも採用されました。さらに“つくる”を通して社会に貢献するという当社の経営理念に沿って、昨年は「海ごみゼロウィーク」に合わせて社員の清掃ボランティア活動のユニフォームとして、『着られるエコバッグ』の“海ごみゼロウィーク”デザインを制作しました。

『着られるエコバッグ』を着用して、会社近辺のゴミ拾いに参加した経験を営業商談の場に取り入れ、顧客の共感を得ることで商品受注につながった事例もできました。

また、当社の最新エコバッグとして『海洋ゴミからつくったエコバッグ』の提案も開始しています。



『海洋ゴミからつくったエコバッグ』

当社は今後も、環境保全や地域貢献へ取り組むと同時に、社会に対しては製造業の責任において環境課題解決に貢献するモノづくりを行い、事業活動を通じた社会貢献の一翼を担っていきます。

ユニファースト株式会社について

“つくりたい”を形にする会社、 “つくる”を通して社会に貢献する会社

1981 年設立。「“つくりたい”を形にする。“つくる”を通して社会に貢献する。」を経営理念に掲げ、独自の企画力や生産体制により高品質なモノづくりを提供。バッグ、ポーチ、ぬいぐるみの分野では業界のパイオニア的な存在に。2019 年からは、モノづくりの知識を存分に活かした自社バッグブランド「svalen」を発売。同年からは環境に配慮したモノづくりにも注力し、SDGs に関心を持つ企業向けの商品開発体制を強化した。日本、中国、ベトナムを生産拠点に、国内各業界のグッズ OEM を手掛けている。

会社名	：ユニファースト株式会社
代表者	：代表取締役社長 橋本 敦
所在地	：東京都台東区浅草橋 3-4-3 ユニファーストビル
TEL	：03-3865-5031
設立日	：1981 年 2 月 13 日
資本金	：9,800 万円
URL	： https://www.unifast.co.jp/
事業内容	：各種バッグ、各種ポーチ、販売促進グッズ、ぬいぐるみ、ユニフォーム、エコロジー商品企画、製造及び輸入

【本件に関するお問い合わせ先】

ユニファースト 広報事務局

担当：陸（リク） MOBILE : 080-3435-4054

TEL : 03-3865-5031 FAX : 03-3865-5035

E-mail : lu@unifast.co.jp